



# ひろしま 市民児協だより

広島市民生委員児童委員協議会

〒730-8586

広島市中区国泰寺町一丁目6-34

(広島市健康福祉局地域共生社会推進課内)

TEL 082-504-2137

「三田小学校前の滑り石」

(写真提供：安佐北区白木地区民児協 会長 三木 清正)



## 避難行動要支援者避難支援事業について

広島市危機管理室危機管理課

課長 森 渉

民生委員・児童委員の皆様には、平素より本市の避難行動要支援者避難支援事業の推進に多大なる御支援、御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

近年は、台風や豪雨などの風水害が全国的に激甚化、頻発化する状況にあることに加え、8月8日に日向灘で地震が発生した際には、南海トラフ巨大地震の発生可能性が普段より高まっていることを知らせる「南海トラフ地震臨時情報」が発表されるなど、大地震の発生も危惧されています。このような災害から市民の命を守る取組が最重要課題となりますが、中でも高齢者や障害者の方のうち自力で避難することが難しいいわゆる避難行動要支援者は、災害発生時に自宅に取り残されるケースが多く、東日本大震災においては、被災地全体の死者数のうち、65歳以上の高齢者の死者数は約6割であり、障害者の死亡率は被災住民全体の死亡率の約2倍と報告されています。

こうした方々を災害から守るためには、地域による連携・協力が最も重要であり、本市では、地域で様々な支援活動を行われている民生委員・児童委員の皆様のほか、地区社会福祉協議会、町内会・自治会、自主防災組織、消防団等に自身の情報の外部提供に同意いただいた避難行動要支援者の情報を提供し、平時の声かけや災害時の安否確認などに御活用いただくとともに、避難時の支援者や具体的な避難方法を記した個別避難計画の作成にご協力いただいています。

このような避難行動要支援者の支援に係る取組には、民生委員・児童委員の皆様の御協力が欠かせません。また、いざという時に助け合える地域を作るには、日頃から「顔の見える関係」ができていくことが重要です。見守りや訪問をはじめとする皆様の日頃の民生委員活動は、災害に強いまちづくりにも繋がる、とても重要な役割を担っているものと認識しています。

本市は、これからも民生委員・児童委員の皆様のほか、多様な地域団体などと連携を図りながら、日頃から災害時の準備を進め、安全・安心なまちづくりに向けて取り組んでまいりますので、引き続き御協力をよろしくお願い申し上げます。

# 被災経験から得た個人的活動指針

安佐南区佐東北地区民児協 副会長 畠堀 秀春

8・20広島豪雨災害から早くも10年が経ちました。深夜から未明にかけ、経験したこともない凄まじい雨の量と響き渡る雷鳴、時折聞こえる大きな破壊音、何が起きているかわからないまま、ただじつと家の中にいました。災害が起きるとの考えも及ばず、突然のことながら避難を

た土砂、大きな岩々、破壊された家々の残骸、凄まじい光景です。これからどうしたらよいか不安な気持ちでいっぱいでした。その後9年余り、市、県、国の担当機関による急ピッチの作業で、復旧から復興へと歩んできました。

考えることもしませんでした。身の危険を感じたときには、坂道は川のように岩交じりの泥水が勢いよく流れ、避難もできません。ましてや停電し暗闇の中、避難先も皆目見当もつかず、ただただ恐怖心と不安感でおろおろするばかりでした。

そこで、被災経験のある私たち住民は、「もうあのような災害には二度と遭いたくないし、子どもたち、そしてすべての人たちに遭ってほしくない、この思いを伝えていかなければいけない役割があるのでは」という思いで毎日過ごしていました。ところが、時を待たずして、平成30年7月「西日本豪雨」に遭遇してしまいました。立て続けの災害で感じたことは、最近の降雨量は想像をはるかに超えて未曾有の災害になりやすいという

朝方、我が家の被災状況を把握できました。巨木が屋根に突き刺さり破壊、外壁は砕け部屋中の床はどこもかしこも30cmくらい泥水で浸かっています。坂道のアスファルトは剥がれ、水路になり、多量の流されてき

そういった経験をもとに民生委員・児童委員の立場から改めて考えてみました。「災害に備える民生委員・児童委員活動10か条」に謳ってあるように、私たちは災害レスキュー隊ではありません。災害時には自分自身と家族の安全確保を最優先し、その上で支援を必要とする人、あるいは必要な家族の情報収集をし、必要としている人に必要なものが届けられる仕組み、支援体制を作り上げることが必要だと考えます。

災害対策は、日常の活動の延長線上にあるかと考えます。自然災害が頻繁に起きる中、私たちは防災・減災に対し高い関



心を持つことが重要です。平時より、地域の方々の年齢層、性別、あるいは地域の昔からの言い伝え等情報収集が必要だと思えます。既存団体と情報共有し、その時に最大限の力を発揮できる団体はどこなのか、地域の役割を担う団体の再構築を検討してみてもいいでしょうか。長屋的なお付き合い、昔ながらの「向こう三軒両隣」のお付き合いができれば、地域の情報収集は小さなエリアで可能ですし、防災はもとより防犯等すべての日常生活の危機管理体制が整い、それがコミュニティ再生から活性化の意識高揚に展開していくのではと考えます。



# 狩留家保育園訪問記

安佐北区高陽地区民児協 宮崎 壽子

七月五日、高陽地区民児協は狩留家保育園を訪問しました。

旧市内から、北東に15キロ、湯坂川の下流に位置し、北に白木山を望むことができます。真向いの順正寺の参道にはカラフルな仏旗がはためき、何事かと子らはワクワク。門扉横にはズッキーニが大きく葉を広げ、子らの丹精込めた夏野菜真つ盛り。随所に先生たちの目が行き届き、子どもたちは、この暑さでも安心して水遊びを楽しんでいました。次に、笹の葉飾りのある部屋に入って、七夕祭りの行事を参観させていただきました。七夕のいわれを、ペープサート(紙人形劇)を使った劇場版に、園児も私たちも見入っていました。途中でカササギ探索のミッションがあり、階上階下をぞろぞろと。最後に天の川を渡って織姫と彦星が会えた時は、園児も私たちも思わず安堵の拍手でした。



帰り際、園庭に出ると一階からも、二階からも手を振って見送ってくれました。定員36名の小規模園には、心豊かな時間が流れていました。

高陽民児協重点目標は「広げよう地域に根差した思いやり」その具体的目標の一つに、地域の学校・保育園との連携、と掲げています。園長先生も「何度かお会いしているので顔がわかるようになりました。」と喜んでくださいました。高陽地区には保育園3、小学校2、中学校1あり。行事への出席、参観は年間大変な数になります。そこには、未来を切り開く子どもたちと、先生が待っているかもしれない。



# 「地域福祉事業助成金」をいただいで

南区荒神地区民児協 会長 橋本 和子

荒神地区は民生委員専用のパソコンがなく、各自パソコンで資料作りをしていました。パソコンには、個人情報が入っているもので外に持ち出せず、これま

で不便を感じていました。この度、地域福祉事業助成金でパソコン購入を認めていただき、かねてより研修等で使いたかったパワーポイントを含めたパソコンを、育成事業費と地区会費と合わせて、晴れて購入することができました。

荒神町小学校では、令和5年度から6年生の授業で『華道教室』をすることとなり、講師の依頼を受けていたので、早速パワーポイントを使って「華道の歴史」の資料を作り、授業に活かすことができました。今後も「華道教室」を続けたいと言われているため、民児協として地域貢献ができると思います。

また、今までは会計の仕事も各自のパソコンで管理していましたが、大切な情報を地区民児協のパソコンに取り込むことが

でき安心しました。さらに、各町内に合わせたチラシ作成をすることにも意欲が湧いてきました。

民生委員の仕事をしていく上で、会計業務、市民児協への提出書類作成、地区オリジナルのチラシ作りなどパソコンを使った作業が多く、それぞれが作成したデータ等を地区民児協のパソコンで管理していくことで、将来の民生委員・児童委員への参考資料として繋いで行けると思います。





# 私とママさんバレーボールとの出会い

佐伯区砂谷地区民見協 高野 成美

私がママさんバレーボールと出会ったのは、主人と付き合っている時。監督をしていた主人が連れて行ってくれた場所。練習されていたママさん達との初めての出会い。その子供達と一緒に遊ぶ事が楽しみになっていきました。

30歳のある日の夜、3人の子供を見ていた私に町内リーグで人が足りないから助っ人（バレーが大の苦手なのに）として呼ばれ、子供を親に預けて行き、コートに立ったのが初めてのママさんバレー。とにかく立っているだけからのスタートで、そこから週2回の練習が始まりました。初心者なので基本から。狙われてなんぼと言われるますが出来ない悔しさもあり、練習は頑張りました。顔でレシーブ、胸でレシーブ、必死。練習すれば苦手なバレーも好き

なバレーになっていきました。この30年の中で、出会ったママさんの子供達、我が子、近所の子供達とバレーが出来たこと、そして、バレーを通して出会った仲間が貴重なものになっています。

湯来チームも多いときは8チームありましたが、今は4チームで活動しています。自分の所属チーム名は「VICTORY湯来」。町内でバレー人口も減っており佐伯区から時間をかけて来てくれる仲間もいます。10代〜60代の仲間です。練習は週1回。なかなか行けない日も増えてきています。動くときの調子は良いようです。あともう少し、もう少しいけそう。怪我をせず仲間と『やった感』を味わいたいと思います。



## 俳句・川柳

汗ふいて また汗ふいて 厨ごと

中区 袋町地区民見協 山崎 知子

笑顔こそ 地域を結ぶ 支援の輪

安芸区 矢野南地区民見協 竹本 利郎

編集後記

今日、高齢化・少子化が進み、また高齢者の孤立化、世代間の価値観の相違等とても生きづらい世の中になってきている気がします。そんな中、心と心の隙間をつなぎ、頼られる民生委員になっていきたいと思ひます。

(西区 久保河内)